

令和 8 年度 NPO法人川に学ぶ体験活動協議会 事業計画

1. 事業目標・重点テーマ

RACは、川の指導者の養成活動や子どもたちの川体験の支援を推進してきた。25年を経て、日本で唯一の川の指導者認定制度を持つ、わが国最大の川の指導者ネットワークとして位置付けられる団体に成長した。しかし、川の事故は後を絶たず相次いで起きている現状にあり、当協議会が提供する、安心して安全な川遊びや川から学ぶ社会の構築についての重要性は従来にも増して大きくなっているものとする。一方、指導者養成のプログラムや手法、指導者の管理システムなどについては、時代の変化や要請に合わせるべく、各種の課題点を改善していく必要性が生じている。

本年度は日本財団及び水・地域イノベーション財団の新たな助成を得て、以下のことを重点的に取り組むこととする。

- ①現状の事務局業務で使用しているシステムが老朽化しているため、システムを更新して、効率化を図っていく。
- ②各種講習をより受講しやすくするとともに効率よく学べるプログラムにするため、テキスト類を見直すとともに、動画などの新たな教材を開発、作成する。
- ③川に学ぶ体験活動の指導者養成活動を強化するとともに、子どもの水難事故ゼロを目指すべく、ライフジャケット着用について更なる啓発を行う。そのための活動拠点づくりを行う。

2. 会議

(1) 理事会

令和7年度の活動報告・会計報告、令和8年度の活動計画・収支予算等についての審議及び議決を行う。

【開催日時】 令和8年5月30日(土) 13:30~14:30
【開催場所】 東京海洋大学越中島キャンパス

(2) 総会

令和7年度の活動報告・会計報告、令和8年度の活動計画、収支予算等についての報告を行う。

【開催日時】 令和8年5月30日(土) 14:45~16:15
【開催場所】 東京海洋大学越中島キャンパス

(3) 常任理事会

業務執行に関する検討、講座・資格の審査認定、各種規定などの審議を随時行う。

(4) 専門部会・専門委員会

本年3月の臨時理事会にて改定した「専門部会設置規定」及び常任理事会で改定した「専門委員会設置規定」により再編された、専門部会、専門委員会により、以下の業務を実施する。専門部会は事務局業務のうち可能な限りの業務を事務局に代わって実施できる部会になることを目指す。

1 総務部会

- ・事務局と連携し、会員管理、会議体運営、会計・出納など、RAC組織運営の基盤となる業務を統括・支援する。本年度は特に助成金の予算管理を担当する。
- ・組織運営に関わる規程や業務フローの整備・見直しを行い、安定的で透明性の高い運営体制を構築する。また、会員団体との関係維持・強化を重要な役割とし、会員向け情報の整理、会員メリットの明確化および案内、加入後のフォローを行う。
- ・会員の活動状況を把握し、参加促進や継続的な関係づくりを通じて、RAC全体の基盤強化を図る。
- ・事務局の効率化・合理化に関する業務を推進する。特に、メディア部会と連携しながら新システムを立ち上げる。

2 人材育成・安全部会

- ・各種講座の実施を通じて、RAC 指導者の育成および資質向上を図る。
- ・本年度は、特に水難事故調査の検討を行い、水難事故調査の講習プログラム化を行うとともに講習を試行する。
- ・従来実施してきた各種講習プログラムを総括的に見直し検討を行う。リーダー講習会当基本的な講習会について、講習時間の短縮と効率化を目的とした講習プログラムの再編検討を行う。
- ・リーダー講習、アシスタントリーダー講習の推進に努めるとともに、RAC アシスタント・インストラクター講座の理解と普及に努める。

3 事業部会

- ・事業の企画・営業、事業実施に関するマネジメントを行う。
- ・日本ライフセービング協会と日本財団が進める「海のそなえプロジェクト」に引き続き協力していく。
- ・RAC が受託している事業については、事務局が窓口から指導者手配など全面的に担ってきた経緯がある。将来的な安定運営のために事業部会として積極的に関わっていききたい。引き続きこれまで RAC には無かった地域団体などとの活動機会を獲得していきたい。
- ・組織強化策として、RAC 事務局支援／河川管理者と連携した河川業務事業者への RAC 活動の普及推進／民間企業との連携・研究の推進／環境系団体や指導者との連携を推進／東京オリンピックのレガシーであるカヌースラロームセンターとの連携提案を進める
- ・河川管理者と連携して、全国の主な拠点で、水害・水難事故への対応講習を実施する。
- ・広報力向上として、SNS の充実／広報戦略を検討／広報・営業用ツールの整備／自治体への情報提供／全国川遊び百選の拡充／防災教育プログラムの集約・開発
- ・全国大会への参画、関与及び指導を行う。

4 学校連携部会

- ・河川での自然体験活動を通じた学校教育等支援方策として、幼児・児童生徒の探究意欲を高めるための学びの誘導に向けた支援方策の試案を作成し効果を検証するとともに指導者向けの手引きをまとめる。
- ・学校教育における水難事故防止方策として、児童生徒の川でのヒヤリハット経験等の実態に関する調査と教員へのヒアリング調査を踏まえた学校教育における水難事故防止対策を検討する。

5 メディア部会

- ・RAC 団体の業務を迅速、効率的かつ正確に推進するため、事務処理の DX 化を企画・導入する。特に、指導者の管理システムの構築を検討する。
- ・広報およびホームページ更新に関する全体の統括を行い、各部会が実施する広報活動を支援する。
- ・各部会からの情報を集約し、漏れなく広報媒体（ホームページ、メールマガジン、SNS 等）に反映させる。また、各会員団体が実施する講座やイベント等の情報を受け、RAC の活動として広く発信・拡散する。
- ・あわせて、新たな広報手法や発信企画の検討・立案を行い、団体全体の認知向上と情報発信力の強化を図る。

(5) 専門委員会

①危機管理委員会

RAC 登録指導者や会員団体が重大な事故に遭遇した際の緊急対応を担当する危機管理組織とする。

通常時は待機状態とし、事故発生時に代表理事が速やかに招集し、対応する。

②資機材委員会

レンタルおよび販売業務のあり方について検討を行うとともに、資機材の安全性確認および基準の検討を行う。

3. 川の指導者養成等

(1) 普及講座

① RAC アシスタントリーダー、リーダー等指導者養成

- ・1万人を当面の目標にして全国各地の各河川で活躍できる RAC リーダーを養成する。
- ・かわまちづくりの構成員を念頭においた指導者養成を行う。
- ・保育園の先生及び小学校の先生などを対象に川の指導者育成を行う。

(2) 付加資格関連講座、専門講座

①付加資格関連講座

インストラクター等高度な専門家を養成する一環として、水辺のリスクマネジメント講座及び水辺のレスキュー講習、E ボート指導者講習等を RAC リーダー養成講座と併せて展開する。また、それらの講師を担える専任講師を養成するための講座を展開する。

②RAC アシスタント・インストラクター養成講座の構築と展開

RAC リーダーを対象に、インストラクター候補者を養成する講座を構築し展開する。

③RAC トレーナー研修会等

各地で川に学ぶ体験活動を推進するための高度な専門家を養成する。また、条件を満たすインストラクターも受講対象としたトレーナー養成講座を RAC 指導者のいない地域でのトレーナー育成を行っていけるような仕組み作りを行う。

④学校連携推進事業

学校連携のパイロット校及び保育園についても、今後、川の指導者育成を行う。（アシスタントリーダー講座など）

※いまままでに RAC と連携した学校、RAC 学校会員登録校については川でのモデル授業等をサポートする。

⑤水害・水難事故防止教育に関する指導者の育成

全国各地に7箇所の水害・防災の体験教育ができる拠点を設けるとともに、河川の水害・水難事故防止教育に関する指導者を育成する。

(3) カリキュラム検討

①指導者養成プログラムの再検討

水・地域イノベーション財団の助成事業を活用して、従来から実施してきた指導者養成プログラムを総括的に見直し、時代の変化と新たなニーズに適したプログラムの再編、更新を行う。

4. 調査研究事業

(1) 調査研究業務

① 水難事故調査手法の検討及びマニュアル化

- ・日本財団の助成事業として、水難事故調査のフォーマットを作成し、調査手法のマニュアル化を図る。
- ・河川において水難事故が発生した際に、その事故の発生原因等を調査し、再発を防止する手法を検討する。併せて、川の水難事故を調査できる指導者を養成するプログラムを構築する。

② 水害・水難事故の対応拠点の検討及び整備

- ・日本財団の助成事業を活用して、全国に河川管理者と連携して全国7か所に体験活動と防災活動を行える拠点を整備する。拠点には、E ボート、ライフジャケット等を整備するとともに、地域の方々が活動できるような講習プログラムを検討する。
- ・プログラムは、地域のニーズに応じて、レスキュー訓練や防災用ボートの操船体験等も選択できるような内容とする。

(2) 「川育」関連事業

① 子どもの水辺安全利用の普及

全国各地の自治体等で展開される水辺の活動などにおいて、水辺での体験活動を安全に実施するために必要な安全管理の基礎等について普及する。

② 防災教育関連

コロナ禍まで実践していた防災教育キャンプ及び防災スクールを再提案していく。

③ 小学生向け水辺の安全教育実践

昨年度よりスポーツ庁の推進する小学校向けの安全教育実践のプログラム構築に関連する、「カヌースラロームセンター」でのモデル授業の実践をサポートする。

5. 体験活動支援事業

- ・企業その他からの依頼に応じて、体験活動を支援し、実施する。また、当法人の展開する事業へ賛同意向のある企業と事業連携の可能性を調査し試行する。
- ・E ボート大会等の実施地域への水辺活動支援を行う。
- ・MIZBERING へ繋がっている機関等との連携をすすめる。

6. 全国大会等事業

(1) 第25回川に学ぶ体験活動全国大会 in 東京・浦安（共催事業）

開催地域で組織される実行委員会主催の全国大会を支援・共催する。

※ 日時：令和8年10月17日（土）～18日（日）

※ 会場：東京海洋大学越中島キャンパス、浦安市

※ 主催：第25回川に学ぶ体験活動全国大会 in 東京・浦安実行委員会

テーマ：かわまちづくり

(2) RAC フォーラム等の開催

テーマ：「未定」

※ 日時：未定

※ 参加費：未定

※ 会場：未定

7. グッズレンタル・販売事業

- ・事務局においてグッズレンタル・販売事業を継続する。
- ・E ボートの販売戦略を立てて、営業活動を行う。

8. 広報・普及活動

(1) RAC 認定川育ライフジャケットの普及及び調査研究

- ・RAC 認定川育ライフジャケットを普及するために、WEB ページにて公開している認定審査情報等について随時各メーカーへ個別説明を行う。
- ・会員団体がライフジャケットを直接販売できる仕組みを活用してライフジャケットの普及を図る。

(2) その他広報活動

- ・ホームページ、facebook を随時更新すると共に、リニューアルしたホームページのメンテナンス及び更新を行う。RAC の取組みが話題となるよう SNS を有効活用する。
- ・メールマガジン「RACNEWS」を随時回発行。
- ・民間・官公庁主催の水や川に関する各種イベントの場を、川の安全利用の推進の場、RAC の広報の場として活用できるよう努める。
- ・役員が中心となり、各地域で普及活動を展開し、会員の拡大、指導者の登録及び更新率の向上を図る。役員が説明時に必要な書面の作成、充実を行う。

9. その他

(1) 河川協力団体

- ・荒川の河川協力団体として河川利用の推進に寄与すべく、荒川下流河川事務所とも連携を取りながら、子どもを対象に E ボートを使った水辺体験活動を行う。
- ・利根川の河川協力団体として河川利用の推進に寄与すべく、利根川下流河川事務所とも連携を取りながら、地域住民を対象にした防災・水難事故防止を学ぶ E ボート乗船会を開催する。

(2) 講師派遣等

- ・講師派遣、自然体験活動指導者認定事業を行う。学校等へ子ども水辺安全教室の講師派遣を支援する。
- ・青少年の家などの教育関連施設との連携を推進する。

以上